

営農情報 第10号

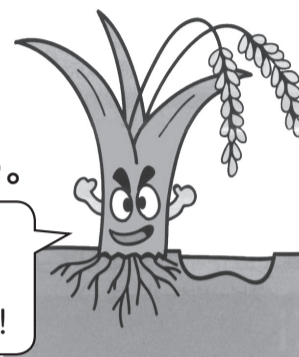
平成27年9月3日
アルプス農協管内農業技術者協議会

8月上旬の気温が平年より高めに推移したことから、コシヒカリは9月5日頃から刈取りが始まり、盛期は8～10日頃になると予想されます。

適期・適切な「**水管理**」、「**刈取り**」、「**乾燥・調製作業**」等の重点技術対策を徹底し、胴割米の発生を防止するなど、最後まで高品質なアルプス米の生産に努めましょう。

1 刈取りまでの水管理等

- (1) **刈取り5～7日前までは、間断かん水を行い、稲体の活力を維持しましょう。**
- (2) **フェーンなど高温が予想される場合は、事前に入水し、急な枯上りを防ぎましょう。**
- (3) **刈取り前にクサネム等の雑草を抜き取り、異物混入を防ぎましょう。**



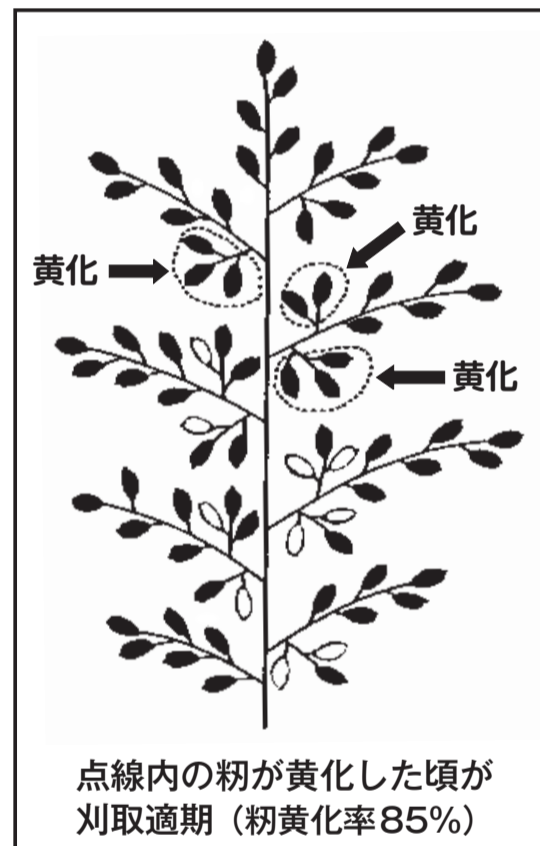
2 適期刈取り

- (1) 籾の黄化状況を確認し、**籾黄化率85%を目安に刈取りを行い、適期内に収穫を終えましょう。**

【コシヒカリ出穂期からの刈取時期の目安】

出穂期	刈取適期 (籾黄化率 85～90%)
7月29日	9月5～7日頃
8月1日	9月8～10日頃
8月4日	9月11～13日頃

(注)
・出穂後の日平均気温の積算温度による刈取時期の目安なので、ほ場毎に籾黄化状況を確認し、適期刈取りに努めましょう。



- (2) 砂壤土や枯上りの早いほ場から収穫を始め、**刈遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。**
- (3) 大規模経営体では、**コシヒカリを刈取適期内に刈取れるよう、収穫開始を少し早め(籾黄化率80%)にする等、作業計画を立てましょう。**
- (4) **地区の刈取適期表示札を参考にしてください。**

刈取り作業上の留意点

- ① 刈取りは、籾が乾いてから開始しましょう。
- ② 扱胴回転数、扱き深さ等を適正に調節しましょう。
- ③ ヤケ米発生防止のため、収穫後4時間以内に乾燥機に入れ送風しましょう。
- ④ コンバインの各部につまりや故障が発生した場合は、**必ずエンジンを止めてから対処しましょう。**

- (5) **乾燥・調製作業については裏面を参照ください。**

3 カントリーエレベーターやライスセンターからのお知らせ

- (1) 各種利用助成制度があります。
(平日利用助成、遠隔地利用助成、早生・晩生利用助成、大口利用助成)
- (2) 平日利用助成について(生育・天候等により変更になる場合があります)。
・コシヒカリの平日利用助成の設定日は9/7(月)～11(金)、14(月)・15(火)です。

～栽培履歴簿は必ず記帳し、出荷前にJAに提出してください～

適正な乾燥調製で胴割米や過乾燥米の発生防止を！

出穂後10日間の平均気温が、27℃以上になると胴割米が発生しやすくなることが知られています。

(8月2日～8月11日の10日間の平均気温：富山地方気象台28.9℃、魚津アメダス：27.4℃)
 胴割米を出さないために、刈り遅れないように努め、急激な乾燥をしないよう留意しましょう。
 また、適正玄米水分14.5～15.0%に仕上げ、過乾燥米にならないように留意しましょう。

1 慎重な乾燥作業 ～籾水分に応じた送風温度で胴割粒や過乾燥米の発生防止～

乾燥作業のポイント

- 玄米水分が14.5～15.0%になるよう乾燥しましょう。
- 張り込み時に籾水分が25%以上または20%未満の場合は下の表を参考にしましょう。

収穫籾の水分	乾燥作業の注意点
25%以上	<ul style="list-style-type: none"> 急激な乾燥は胴割粒の発生が多くなるため、2～3時間の通風乾燥を行い、送風温度を機種標準より下げて乾燥する。 籾水分17%程度で一度乾燥を止め、数時間休止した後に再乾燥(2段乾燥)を実施する。
20%未満	<ul style="list-style-type: none"> 立毛中の胴割粒が懸念されるため、乾燥温度を機種標準より下げ、ゆっくり乾燥する。 (例 乾燥機の張込量設定つまみ等を下げて調整を行う)

- 乾燥速度は1時間当たり0.6%程度と遅くしましょう。
- 外気温や湿度、張り込み量に応じた送風温度にしましょう。
- 青米の混入状況に応じた乾燥機停止時の玄米水分で乾燥機を停止してしましょう。(下表参照)。
- 籾水分が17%以下になったら、手動水分計でこまめに水分をチェックしましょう。

表 乾燥機停止水分の目安

玄米100粒中の青米粒数	乾燥機停止時の玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
5粒以下	15.0～15.5%	乾く(-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	変化なし
11粒以上	14.0～14.5%	もどる(+0.5%)

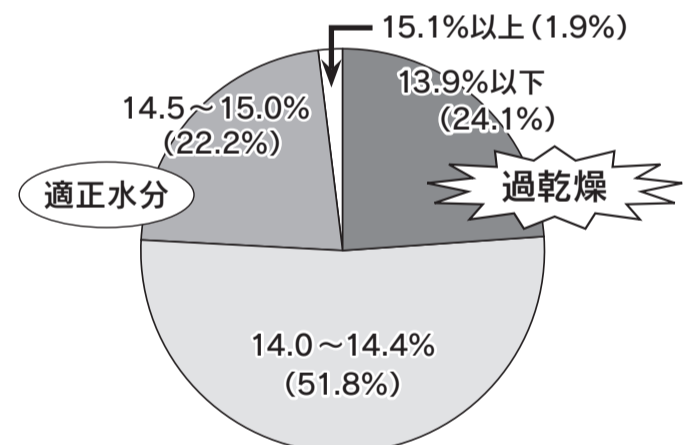


図 26年産アルプス米の水分頻度

2 適正な調製作業 ～作業前の各機器の点検と丁寧な作業がポイント！～

(1) 籾すり機のチェックポイント

- ① ゴムロールの劣化や減耗はありませんか。
- ② ゴムロールの間隔は適正ですか
(試しすりによる脱ぶ率：80～85%)。
- ③ 籾すり前の籾温度は常温になっていますか、玄米水分は適正ですか。

- 籾摺りは、籾の温度を常温にまでさまし、水分を必ず確かめてから
- ゴムロールが減ったり、硬くなったら交換を



(2) 自動選別計量機のチェックポイント

- ① 皆掛重量は30.5kgに正しくセットされていますか。
- ② 網目は1.9mmを使用し、適正な流量で屑米などは確実に除去していますか。
- ③ 時々、台秤で計量し、重量が正確か、確認していますか。

